

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 小樽市立高島小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒047-0048
北海道 小樽市 高島5-6-1

E-mail takashima-ps@otaru.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 131名 女子 143名 合計 274名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○はじめに

本校は、平成25年6月にユネスコスクールに認可され、「人権・平和・福祉・環境」を柱に据え、祝津地区の水族館の協力を受け、豊富な自然をもとにした「ふるさと教育」を進めている。

○「つながる学習」へ

本校では、実践してきた「生活科」「総合的な学習の時間」の取組をESDの視点から、「学習がつながる」～学年がつながる 低・中・高と積み重ねる～、「社会とつながる」～地域の環境・人・産業とつながる～ことを考え、「つながる」をキーワードとして活動を進めている。

1 人権の学習

- ① 児童会による「みんなが楽しく明るい学校づくり」活動



「学校を笑顔にする運動」

- ② 「ユネスコ寺子屋運動」としての書き損じハガキの収集
③ エコキャップ、プルタブの収集



「みんなを笑顔にする運動」

2 福祉の学習

- ① 校区内の介護施設への訪問・高齢者との交流（5年）
② 車いす・高齢者疑似体験（5・6年）

3 ふるさとの学習

- ① 校区内の水族館を訪問し、地域の産業を支える人たちについて学ぶ
(低学年)
② 地域の漁師さんに来ていただいて、地域の産業を支える人たちについて学ぶ（3年）
③ 近隣校にある太陽光発電システムを見学し、環境について学ぶ（4年）
④ 企業や博物館の協力による環境教室・地域を知る学習の取組（高学年）

4 ICTを活用した、児童のコミュニケーション能力の向上

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）

小樽市立高島小学校の取組

本校の概要

本校は明治17年に開校し、平成25年度に開校130周年を迎えた。同時に校区が隣接する祝津小学校と統合し、「新」高島小学校としてスタートした。かつては鯉漁場として栄えた祝津・高島地区、新興住宅地へ変貌しつつある赤岩・かもめが丘地区といった様々な地域が校区である。今年度は、特別支援学級を含む15学級、全校児童274名（3月1日現在）の学校である。

平成25年6月にユネスコスクールに認可され、「人権・平和・福祉・環境」を柱に据え、祝津地区の水族館の協力を受け、豊富な自然をもとにした「ふるさと教育」を進めている。

「つながる学習」へ

本校では、実践してきた「生活科」「総合的な学習の時間」の取組をESDの視点から、「学習がつながる」～学年がつながる 低・中・高と積み重ねる～、「社会とつながる」～地域の環境・人・産業とつながる～ことを考え、「つながる」をキーワードとして活動を進めている。

「人権学習の
つながる」

昨年度は、5年生が「総合的な学習の時間」で取り組んできたことを児童会活動につなげて「みんなが楽しい明るい学校づくり」を進めてきた。今年度、彼らは6年生となり、児童会の中心となって



「学校を笑顔にする運動」を進め、引き続き「挨拶運動」を展開してきた。更に今年度は新しい取組として、全校児童に自分の笑顔を描いてもらい、それを玄関前に掲示して、学校を笑顔でいっぱいにする「ニコニコ運動」へとつなげた。

また、「ユネスコ寺子屋運動」として、書き損じハガキの収集も行った。



「福祉学習の
つながる」

以前から行われてきた地域の高齢者介護施設への訪問だが、指導計画を整理し、今年度は5・6年生が「総合的な学習の時間」で行ってきた。

5年生は、高齢者介護施設「つなぐ」に訪問し、学芸会で発表した歌と楽器の演奏を披露した。短い時間ではあったが、参加されたお年寄りの中には、涙を流しながら手拍子をされている方もいらして、とても喜んでいただいた。

6年生は、高齢者福祉施設「はる」との交流を計画していたが、インフルエンザの流行で実施できなかった。

福祉体験として、5・6年生で「高齢者擬似体験」、6年生で「車いす体験」を実施した。



6年生の感想

「私たちはできて当たり前
の動作も、高齢者の方はこんな
にも苦労していることを実感
しました。自分の体が元気だ
ることを改めて感謝すると
ともに、体が不自由な方には
思いやりをもって手助けをしてい
かなければならないことを実感
しました。また、当日、説明やお
手伝いをしてくださったボラン
ティアの方が言っていた、『元
気に年を取ることが大切です。』
という言葉が、心に残っています。」



上記の児童の感想にもあるように、これらの体験や訪問は、「他者を理解し、思いやる心の育成」へとつながり、地域とつながることもできた。

「ふるさと学習の
つながる」

本校は、統合により広がった校区を生かした「ふるさと学習」を推進している。各学年が、社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間などで地域素材を活用しながら校区の自然や歴史を



学んできた。そこから、地域の環境について考える機会につながってきた。

【1・2年生：生活科】

校区内にある水族館を訪れ、海の生き物に触れたり、水族館で働いている人々の様子を知り、地域との関わりや親しみを持った。

【3年生：社会科】

ぎょれんのご協力で、地域の漁師さんにきていただき、校区が面する海での漁の様子や採れる海産物について教えていただき、海の環境についても学習した。朝に採れたタコやカニを持ってきていただき、実際に触れてみた。



【4年生：理科】

近隣校にある太陽光発電システムを見学し、システム施工業者の方から、太陽光発電のしくみや環境との関わりについて学んだ。



【5・6年生：総合的な学習の時間】

朝日新聞社とロッテのご協力で地球環境について考える環境教室を行った。その中で、新聞記者が見た地球環境や企業が行っている環境保護活動について学び、小樽の環境についても考える機会となった。



他にも、博物館学芸員の方を招いて「高島おぼけ」という小樽沖で見られる蟹気楼について学んだ。蟹気楼ができるしくみも、実験で体験した。地域を知る学習の一つとしてとても有効だった。



↓ 5年の環境教室を紹介した新聞



ICT機器を活用した授業の推進

地域素材を活用したふるさと学習などでは、教師や児童がより分かりやすく伝えるために、実物投影機や大型テレビなどのICT機器の効果的な活用を進めている。

今年度は全学級に実物投影機と大型テレビが配置されたことを機会に、2月に「ICT活用研修講座」が本校を会場として実施され、授業の公開や研究協議、講師による講演会が実施された。

多くの参加者には、分かりやすい授業を構築する上で、ICT機器は効果的であるという思いをいただいていた。

今後は、学んだことを効果的に発表するために、また、コミュニケーションの手段の一つとして児童が積極的に機器を活用し、本校のESD活動を広く発信していきたい。

